

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：36101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370122

研究課題名(和文) 近世後期讃岐・阿淡の書道文化 - 儒学者のかかわりを中心に -

研究課題名(英文) Calligraphy Culture of the Early Modern Period late in Sanuki and Atan  
-Concentrating on the Involvement of Confucian Scholars-

研究代表者

太田 剛 (OTA, Tsuyoshi)

四国大学・文学部・教授

研究者番号：30461362

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：讃岐・阿淡の石碑を20基以上拓本に採り、儒学者の書蹟を15点収集した。既に存在する資料とこれらの新資料を解読して儒学者の関係性や新事実を明らかにし、数多くの論文作成・書籍刊行・学会発表・講演発表・新聞記事投稿・ブログ・書道展などの形で広く社会に公表した。大学の授業でも紹介し、多くの学生に影響を与えた。関連の博物館や学者の子孫たちにたいへん喜ばれ、地域にも先人の活躍や発想に目を向ける人が増え、書道文化への関心が高まった。各地の観光・教育の資料として好材料を提供した。

研究成果の概要(英文)：Rubblings of more than 20 stone monuments were taken in Sanuki and Atan, and 15 calligraphy works of Confucian scholars were collected. To clarify the relationship of Confucian scholars and newly discovered facts through deciphering the existing documents and new materials, I published many thesis, books publication, conference presentations, lecture presentations, newspaper articles, posted blog, calligraphy exhibition in the community.

Also, I introduced these in the classes at the university, and it had an impact on many students. I was able to give joy to the involved museum officials and descendants of scholars. More and more people look to the ancestor's ideas and activities in the region. As a result interest in calligraphy culture has increased. It has provided good materials for tourism and education around the area.

研究分野：書道史

キーワード：石碑拓本資料収集 地域書道資料コーナー 臨書作品の奉納 論文作成と書籍刊行 学会・講演会で発表  
観光・教育の材料 地域活性化に貢献 身近な文化財の保護

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 平成 19 年度に徳島県に移住してすぐに、この地の近世文化の優秀性に気付いた。阿波踊り・四国遍路・人形浄瑠璃のような近世文化が今も観光の目玉として残っているし、石碑や文書・書軸など近世の書道文化の遺物が今も残っている。以後、かつて讃岐・淡路・阿波と呼ばれ、文化的にもつながりの深い三地域(「讃岐・阿淡」と略称する)の近世後期に研究範囲を定め、その時代に学芸の牽引者であった儒学者の書を中心に調査や資料収集を始めた。石碑の拓本を採り、漢文や変体仮名の文書の解読をした。

(2) その調査の過程で、この地域の博物館や儒学者の子孫など、石碑や書蹟の管理者から資料の解読を依頼されることが増えた。書道や漢文を十分に学んでいない現代人には、これらの資料の内容が理解できないままだったからである。その書蹟に関わる儒学者は、後藤芝山・久保桑閑・柴野栗山・中山城山・中山麓山・藤澤東咳・藤澤南岳・貫名松翁・篠崎小竹・前川秋香・井上春洋・新居水竹・岡田鴨里 などである。

### 2. 研究の目的

(1) このような儒学者たちに関わる資料を読み込んで、思想や人間関係を調べ、碑文・作品等の文字資料を集めて比較することにより、讃岐・阿淡の書道文化の様相をより深く理解したい。これまで、これに関する研究はあまり進んでいなかった。これはいま自分が徳島県に居住しているからこそできる研究であり、さらに四国大学図書館凌霄文庫は近世の地域研究資料が充実している。

(2) これまでの日本の書道史・文化史研究は中央からの視点が重視されてきたが、有力な地方から見直すことで認識が変わっていく面も多い。讃岐・阿淡は、近世後期には、全国的に見ても裕福で政治的に大きな力を持つ地域だった。未解読文書や石碑には、今まで知られていなかった新たな情報も多く含まれているし、その書蹟は書作品としての大きな価値を持つ。これらを現在の住民が知ることにより、地域文化に自信を持つと共に、石碑や扁額・書軸・屏風等の書道文化遺産が新たな観光や教育の素材になっていくことも期待できる。

### 3. 研究の方法

(1) 書蹟の読み込みと、拓本による石碑資料および書軸作品の分析を中心にする。石碑の採拓は基本的に一人で行なうが、大きな石碑の場合は学生に協力を依頼する。石碑の探索は主として竹治貞夫氏・桑田明氏の著作を参考とする。資料や書作品の実物の複写および撮影には、四国大学図書館・栗山記念館・高松市歴史資料館・高松市塩江美術館・高松市香南町歴史民俗郷土館・丸亀市立資料館・

鎌田共済会郷土博物館・平賀源内記念館・徳島県立文学書道館・徳島県立図書館・徳島県立文書館・徳島城博物館・阿波公方歴史民俗資料館・三木文庫・薬王寺・十輪寺・洲本市立淡路文化資料館・明石市立歴史文化館ほか、個人所有者・地方史研究者の協力を得た。

(2) 毎年7月に行なっている「四国大学書道文化学科教員展」では、採拓した石碑作品の中で、特に重要な碑の全臨作品を屏風形式に作品化したものを必ず1点は発表し、展示後は寺院などに奉納した。また同展内で「地域書道資料コーナー」と題して、収集した儒学者の書軸や石碑拓本を解説付きで展示した。

(3) 研究結果は論文にまとめ、また各種学会でも発表、また博物館や大学でも講演の形で公表した。研究誌にも数多く投稿し、書籍も刊行した。

### 4. 研究成果

この3年間に拓本を採って掛軸の形に表具した石碑や墓石は、20基以上に及ぶ。讃岐関係では、香川県三木町の神内家墓地に於いて8基、高松市古高松の揚家墓地の2基、阿波関係では、徳島市般若院の神内家墓碑が2基、愛媛県大島の神内家関連碑が2基、鳴門市十輪寺関係が1基、淡路関係では、洲本市2基、南あわじ市4基である。これらは、論文作成の際の重要な資料となった。また、地域の近世儒学者や書家の真筆の掛軸作品を古美術店から購入して、本学図書館の蔵書資料としたものが15作品に及ぶ。毎年7月に四国大学交流プラザ3Fで実施している「四国大学書道文化学科教員展」の中で「地域書道資料コーナー」を開設し、7点程度ずつ解説付きで展示した。また、教員展では石碑文を六曲屏風に臨書した作品を毎年作成して展示し、それらは展示後にゆかりの寺院に奉納した。寺院では本堂に展示して信者に披露して頂いている。また、拓本掛軸や書軸の一部は、各地の博物館の企画展の中で展示したり、講演会の際の参考資料として展示し、大勢の人々に鑑賞して頂いた。これらの石碑拓本の漢文を解読して論文の資料に転用した。

書蹟・書籍の解読で最も力を入れて取り組んだのは四国大学図書館所蔵の『亜墨漂流新話』(前川秋香著)、『亜墨竹枝』、『亜墨竹枝余話』(井上春洋著)の三部作である。これらは幕末にメキシコまで漂流した阿波の初太郎の体験談の聞き書きとそれに関係する文章である。1970年に一度解読はされている資料であったが、再度精査する中で新たにわかったことも多かった。論文作成、学会発表、講演発表も多く実施した。讃岐の儒学者 後藤芝山の書、中山麓山の事象に関してはそれぞれ書籍化した。阿波の足利義根・貫名松翁に関する事象、藍商 三木家の事象、書家 喜根井家に関わる事象、柴野栗山に関する事象、

淡路の文人に関わる事象をそれぞれ論文化し、学会発表・講演発表した。この間の調査の様子や、講演・学会・書道展の様子を個人ブログに写真入りで掲載し、大学のHPや書論研究会のHPにリンクしてさらに大勢の人たちに見て頂く工夫をした。時には新聞・雑誌の文化欄に掲載した。

これまで、この地域の石碑や書蹟が優秀なことは歴史学の分野では知られていたが、拓本技術、漢文や崩し字の解読技術に長けた研究者の不足から、思うように研究が進んでいなかった。そのため、この3年間に作成した論文・書籍・学会発表・講演発表は、多くの注目を集めた。特に書蹟を継承・保管する博物館や後裔の皆さんからは感謝された。特に讃岐の後藤芝山の作品は解読されていなかったもので、深く感謝された。今まで不明だった喜根井家の詳細な歴史がわかってからは、一族の結末が高まったことを聞いている。淡路の近世の儒学者に関わる詳細な研究もこれまでほとんど行なわれていなかったが、歴史を観光事業に活用しようとする動きが起き始めていて、その材料を提供し活動を盛り上げる結果となった。鳴門市十輪寺は、四国八十八ヶ所を寺院を決めた場所で、「前一番札所」の別名もある古刹だが、これまでそれを実証する石碑と過去帳の解読が進んでいなかった。採拓・解読後に論文化した冊子は、信者や遍路に配布し、石碑を屏風に臨書した作品を本堂に飾り、感謝されている。これらは歴史的資料の価値だけでなく、書道作品としての美しさの価値も高く、今後も徳島県の観光にとっても大きな材料となり、地域活性化に貢献していくはずである。

讃岐・阿淡の儒学者の資料を調査していくうちに、予想位以上に彼らが互いに関連を持っていることがわかってきた。

なお、これらの研究成果は、大学の授業の中でも扱い、ゼミ学生の中で地域の書蹟や石碑調査を卒業研究の題材にする者が増えた。また、高校への出張授業、一般向けの公開講座、放送大学の面接授業、各種生涯教育での授業や講演の際に内容紹介をすることも多くなった。現在は月に一回程度はこれらの依頼に対応している。中央からの歴史観だけでなく、これまで知られていなかった地域の先人の活躍や発想に興味を持つ人が確実に増えつつある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計10件)

太田剛、「阿波と柴野栗山」、『書道文化』第12号、2015、査読無、53 - 82。

太田剛、「石碑・書軸からみる藤澤東咳・南岳の交友と思想 - 香川県に存在する資料を中心に - 」泊園記念会雑誌『泊園』第54号、2015、査読有、157 - 217。

太田剛、「阿波の藍商書家三木雲城の生涯と書」、『全国大学書道学会紀要『大学書道研究』第8号、2015、査読有、75 - 86。

太田剛、「阿波板東談義所『説法山十輪寺碑』解説」、『書道文化』第11号、2015、査読無、81 - 100。

太田剛、「幕末徳島の書家喜根井善種とその後裔 - 十六歳の原鵬雲が描いた肖像画から始まる物語 - 」、『四国大学紀要人文・社会科学編』第43号、2015、査読無、209 - 251。

<http://www.shikoku-u.ac.jp/education/kiyou/043/>

太田剛、「井上春洋著『垂墨竹枝』解説」、『四国大学図書館紀要『凌霄』第19号、2014、査読無、29 - 80。

太田剛、「平島公方足利義根と近世阿波の書道文化」、『全国大学書道学会紀要『大学書道研究』第7号、2014、査読有、39 - 50。

太田剛、「日下部鳴鶴書『三木氏先世遺徳碑』について」、『四国大学書道文化学会紀要『書道文化』第10号、2014、査読無、67-128。

太田剛、「井上春洋著『垂墨竹枝余話』翻刻」、『四国大学紀要人文・社会科学編』第41号、2013、査読無、159 - 175。

<http://www.shikoku-u.ac.jp/education/kiyou/041/>

太田剛、「井上春洋著『垂墨竹枝』から見る栄寿丸漂流事件」、『徳島科学史研究会紀要『徳島科学史雑誌』第32号、2013、査読無、16 - 28。

#### 〔学会発表〕(計6件)

太田剛、「徳島・淡路に存在する巖谷一六・日下部鳴鶴の書碑について」第37回書論研究会大会、2015.8.23、筑波大学(茨城県つくば市)

太田剛、「石碑・書軸からみる藤澤東咳・南岳の交友と思想 - 香川県に存在する資料を中心に - 」第54回泊園記念講座、2014.10.24、関西大学(大阪府吹田市)

太田剛、「阿波の藍商書家三木雲城の生涯と書」全国大学書道学会埼玉大会、2014.10.12、埼玉大学(埼玉県さいたま市)

太田剛、「三木氏先世遺徳碑について」四国大学書道文化学会春季講演会、2014.5.25、四国大学(徳島県徳島市)

太田剛、「平島公方足利義根と近世阿波の書道文化」全国大学書道学会群馬大会、2013.10.5、群馬大学(群馬県高崎市)

太田剛、「徳島藩医井上春洋著『垂墨竹枝』について」日本科学史研究会四国支部夏季研究会、2013.8.24、香川大学(香川県高松市)

#### 〔図書〕(計6件)

太田剛、漆原晴香、『薬王寺所蔵書蹟の研究 - 板東無我の書と貼り交ぜ屏風の解読を中心に - 』2016、四国大学、51頁。

太田剛、『『水主石風呂記』後藤芝山写本』  
2016、四国大学、58頁。  
太田剛、『早世した讃岐の天才漢学者 中  
山麓山』2015、高松市立香南歴史民俗郷土  
館、22頁。  
太田剛、『益習館とゆかりの学者たち』2015、  
四国大学、30頁。  
須藤茂樹、太田剛、有内則子、萩原八郎、  
稲井由美、『プロジェクト方式による学際  
的・総合的研究『阿波学事始め 地元学・  
ふるさと再発見 研究成果報告集』2015、  
四国大学、25 - 119頁。  
太田剛、『後藤芝山の書』、2013、後藤芝山  
顕彰会、150頁。

〔その他〕

個人ブログ「ぱたぱた仙鳩ブログ」  
<http://blog.goo.ne.jp/pjota12345>

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

太田 剛 (OTA Tsuyoshi)  
四国大学・文学部・教授  
研究者番号：30461362